宝り光

No.163　2023. 9

発行　真言宗豊山派
北田山　寶泉寺
所沢市北岩岡 130
編集　色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

お彼岸は仏教強化週間

真夏の暑さが遠ざかり、新涼の風に吹かれ人々の営みも活発になるのでしょうか、秋になると、防災週間や交通安全週間など、一つのテーマを推進するための「〇〇週間」が多くなるようです。

実は、仏教にも「仏教強化週間」と呼ぶことのできる期間があります。それが春と秋のお彼岸です。

「彼(か)の岸＝仏の世界」を意味する「お彼岸」は、一般的にお盆と同様ご先祖さまに思いを馳せ、お墓参りをする行事と捉えられていますが、その起源ははっきりとわかっていません。民俗学者の五来重氏によれば「お彼岸は、仏教伝来以前から日本にあった農耕の祭事とそれに伴う太陽信仰を、ある種仏教が上手く活用してきた風習ではないか。」とのこと。

確かに、お彼岸の中心となる春分の日と秋分の日は一年の農業の始まり（種まき）と終わり（収穫）を象徴し、また作物の成長にはお日さまが欠かせないことから、太陽への信仰が広がることは想像に難くなく、「彼岸」を「日願」と書くことがあるのもうなずけます。

では、なぜ、このような風習が仏教と合体（習合）したのか。それは次に挙げる

① 春分・秋分の日は、太陽が真東から昇り真西に沈むことから西方極楽浄土、つまり阿弥陀さまとご先祖さまの住む世界と真っ直ぐに強く結ばれる日である

② 「般若心経」にも登場する「波羅蜜（多）」という言葉が「到彼岸」を意味し、「日願」と「彼岸」をかけ、お彼岸の時期は特に成仏に到ることができる

③ 昼と夜がほぼ同じ長さなので、何ものにも偏らない「中道」という教えの実践に適している

の３つの説が有力のようです。いずれにしても先祖崇拝よりも自身と仏教とのつながりに視点を置いていることがわかります。このように、お彼岸は、成仏のため普段以上に仏の教えを意識し、実践する「仏教強化週間」といえるのです。

さて、仏の世界＝彼岸に対して、この世のことを此岸といいます。あちら岸とこちら岸、川や湖では水で隔てられているようでも実は地続きでつながっています。同様に仏の世界と私たちの世界もつながっている。そんな気持ちで美味しいおはぎを食べながら、このお彼岸の時期を過ごしていただければと思います。

檀信徒のおつとめを読む ⑦

7. 発菩提心真言・三昧耶戒真言 p7

真言とは、インドの言葉を翻訳せずにそのままに唱える、意味よりも音の響きに重点をおく呪文です。

発菩提心真言は「これから私は成仏するためにしっかり頑張ります」という決意。

三昧耶戒真言は、「仏と私は同じ存在である」という意味ですが、仏さまからの「あなたはすでに私と同じ仏だよ」という励ましの言葉と解釈されることもあります。

真言は、誤解を恐れずに言えば「やる気スイッチ」のようなもの。教えを理解しながらお唱えできるとより良いですね。

発菩提心真言

おん ぼうぢしった ぼだはだやみ

三昧耶戒真言

おん さんまや さとばん

4年ぶり！① 施餓鬼大法会 厳修しました

去る令和５年８月11日、寶泉寺本堂にて、４年ぶりに皆さんに参列していただく完全な形での施餓鬼会を厳修しました。

本年は、またトイ（おもちゃ）ピアノを駆使するピアノ奏者、畑 奉枝さんのミニライブも開かれました。

ご近所にお住まいで、毎日のように寶泉寺にお仲間とお散歩にこられている方より鑑賞の感想を寄せていただきましたのでご紹介します。

掲示板の「るり光」を見て参りました。大小４，５台の様々なトイピアノが曲によって選ばれて、配置を調整しながら演奏されました。

ピアノの大きな流れにトイの可愛い音色やチャイムのキラキラした音も加わってのハーモニーが心地よく、素晴らしいパフォーマンスでした。

又、曲の合間のお話が心に残りました。統合失調症という病で、ほとんどの時間を家で過ごされているお兄様のお話でした。「おもちゃのピアノだろう、不完全なものだろう、自分を受け入れてくれるような気がする」といい、以来お兄様が次々と作られた曲は素朴で美しく、それらを交えての演奏は畑さんのお人柄そのもの、温かく力強く心に響きました。

お施餓鬼の日にこのようなライブを準備してくださり、満たされたひと時でした。心よりお礼申し上げます。　　（ネオポリス　梶原さん）

演奏する畑さん

4年ぶり！② るりの会開催！

毎年夏に近所の子どもたちがお寺に泊まる「るりの会」も4年ぶりに開催されました。

参加児童 26 名。大人 15 名で座禅やおつとめ、怪談に肝試し花火など楽しい時間を過ごしました。相変わらず最も疲れる行事です^^;

老僧のつぶやき ⑰

自分の年を明かすのも何ですが、この秋には後期高齢者になります。寶泉寺晋山は30才の時ですから、ほぼ北岩岡で45年を過ごしたことなります。30才の若者から眺める当時の方々は、よほどの年長者の方々のように思えました。逆からはこの若者めが、と思われたかもしれないと考えると、赤面するような思いもします。45年も経つとほとんどのお宅では代も変わり、お泊まり会に参加した子ども達も、もうそれなりにいい大人になっているはずです。こんな思い出は間違いなく小僧(しょうそう)の宝物です。

ふり返るに寶泉寺には当地区の集落センター建設から始まった重要案件が盛りだくさん、本堂の新築はその最大のものでした。近年では市道拡張による塀や駐車場の再整備、本堂エアコンの導入、入替と続きましたがこれからしばらくは安定期に入れそうです。

ところで参道入り口に対であった2本のイチョウの木、道路拡張の際そのまま処分はしのびなく製材のうえ保管中でした。

昨年秋、るり洞のエアコン入替の際飾り棚を新設しましたが、その棚板になり、また、本堂正面の「光明」「るり光」を置く机と新たに姿を変えました。何とか姿を変えてでも、イチョウの木の存在を残したい思いでもありました。

イチョウの木の机

編集後記

・今年の5月以降、「4年ぶり」という言葉がよく聞かれる。
コロナ禍で中断していた様々な行事や集まりの再開に心躍らせ、人間は特別なイベントや儀式を通じて結束を高める生き物であることを再確認する。一方でコロナはいまだ収束していないことも覚えておかなければ。

（真了）

・イチョウの木のようにしぶとく老後を生きたいと思う。「無垢板は良いな」と自画自賛、お出での際にはどうぞご覧ください。卒業した高校には同級会があり毎年集まりがあって会報も送ってくる。前回から会員の消息が伝えられるようになった。名前を読んでは懐かしい思いが深まる。まもなく敬老の日、敬老の対象になる。

Sep. 13. 2023（琴）